

下落合クリニックにおける献腎移植登録の現状

医療法人社団 豊済会 下落合クリニック

中塚早紀 原京子 守屋直祐 小桑理香 堀内新子 城愛子 福島香織 今枝温子
菊地勘

【目的】当院の献腎移植登録についての現状を把握し、移植に対する支援を行うことを目的とした。

【方法】夜間透析の患者 52 人のうち 65 歳以下の全患者 30 人を対象に、献腎移植登録状況についてのアンケートを行った。

【結果】献腎移植を知っているとの回答は 24 人 (80%)、献腎移植登録を行っているとの回答は 8 人 (27%) であった。献腎移植登録者から、「更新の手続きが大変になった」との意見があった。非登録者からは「移植後の原疾患再発が不安」、「手術が不安」、「透析のままでいい」などの意見があった。「今後、献腎移植登録についての情報を希望するか？」との質問に希望するとの回答は、登録者は 50% (4/8)、非登録者は 27% (6/22) であり、非登録者の移植に対する関心が低いことが分かった。

【考察】患者の生命予後や QOL 改善のために、腎移植の啓発を行い移植に繋げることは重要である。当院では腎移植の啓発に取り組んでおり、献腎移植の登録状況は 27% で、70 歳未満の全国平均 7% (12,000/166,000) より高率であった。一方、献腎移植を知らない患者が 20% 存在し、導入前の情報提供の不足が考えられるため、非登録者には導入後に改めて腎移植についての情報提供を行う必要があると思われた。

【結語】腎移植を知らない患者や情報を希望する患者に対して、移植に対する支援を積極的に行うことが必要である。